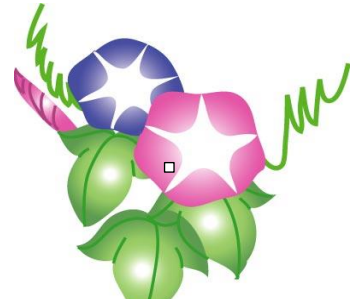


2023年夏号

へそ按腹普及会 日本事務局

へそ按腹たより

夏号



【ご挨拶】

最近、突然死が増えていると話題になっています。先日も患者さんの友人が、まだ65-6歳で突然亡くなったそうです。4回目のワクチン接種以後体調が急激に悪くなり、3週間ほどで亡くなりました。ワクチン後遺症の患者さんも多数来院されます。うつ病などの精神症状、食べられない、だるい、なんだか調子が悪い等々、脱毛症、血栓症の方もいます。繰り返しワクチンを打つ中で、体調が急激に悪くなる人が出ています。そういう患者さんのお腹を見ると、胃土…へその上から水落の間…が硬く詰まった状態です。胃土に邪が入り込んでいる人は、あらゆる病が重症化しやすく、反応も出やすい傾向が見られます。胃土に邪がある人には、繰り返しワクチンを打つことはお勧めできないと感じています。胃土の邪を払うには、まず肋骨の内側を丁寧に脇までさすります。それから胃土を挟み込むように左右から主根で按腹します。いつも胃土を意識して、胃土が硬くならないように按腹してください。極端な言い方ですが、軽く風邪をひいて自然免疫をつけておく方が、ワクチンという異物を体内に入れるよりも安心だと思います。上記の按腹で、ワクチン後遺症及びコロナの重症化・後遺症を予防、改善できるのです。

脳梗塞のお腹

脳血管障害は三大成人病の一つです。くも膜下出血などは若い方にも多くみられます。脳出血や脳梗塞をおこす方のお腹には、その形に特徴があります。一言で言えば、左右のお腹の大きさに違いがあるのです。片方どちらかが大きく膨れています。痩せている方はお腹に力を入れると良くわかります。一方だけが膨らみます。日ごろから自分でお腹を良く見て、その実邪（膨らみ）の周りを良く按腹してください。皮膚をさする、つまむで良いです。発症する前に、脳梗塞をはじめとする脳血管障害を予防しましょう。

認知症

高齢化が進み、ますます認知症が増える時代を迎えています。65歳以上は5人に1人が認知症になると言われますが、それを遥かに越えるスピードで増加していると感じます。認知症の予防には按腹が一番適しています。肺へその際までのゾーンを大きくつまんで下に引き下げる按腹です。1日3回、10回ほど息を吐きながら行ってください。

把握の手技

全体按腹をしながら、大きな邪実を手のひら全体で包み込みます。力は必要ありません。包み込むように軽く邪をホールドしたら、上下左右にゆっくり揺さぶります。その瞬間、指先にグリグリしたものを感ずります。患者さん本人は引きつれるような痛みを感じます。その場所付近に仕上げの手技(表皮をつまむ)を加えていくと、はっきりとした邪の輪郭と反応帯が浮かび上がってきます。難しいお腹、特に実実や虚虚のお腹もこの把握の手技で全て見えてきます。

今後の予定

北海道・帯広でセミナーを開催します。

日時:8月29日(火)~8月31日(木)

初級・中級・上級を網羅するセミナーです。

ご自分のレベルに合わせて、1日だけの参加・途中参加もできます。

大自然の中で美味しいものを食べ、良い温泉につかり、心身を癒しながら最新のへそ按腹の技術を習得できます。詳しくは治療院受付までお問合せ下さい。

YouTube 動画へのリクエストをお寄せください。

YouTube 会員を募集しております。

YouTube 会員についてのお問い合わせ

【へそ按腹普及会 (すぎやま按腹鍼灸院内)】

電話: 03-6206-2666

メール: heso.ampuku.hukyukai@gmail.com